

【高等学校用】

令和7年度学校評価	結果・学校関係者評価
-----------	------------

学校名	佐賀県立伊万里高等学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	職員は生徒の学習状況や成績、進路希望、学校生活における心身の健康状態等について、それらの成果及び課題をよく把握しようと努めている。さらに、課題の克服や改善に向け、適切な目標を立て、共通理解のもとで具体的な指導や取り組みを展開している。
------------------	---

	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
3 スクール・ポリシー	<p>ア 理想を高く掲げ、上級学校への進学を目指して自ら学ぶ姿勢をもつ生徒を求める。</p> <p>イ 心身ともにたくましく、文化の創造や産業の振興など、社会や地域に貢献する気概と情熱に満ちた生徒を求める。</p> <p>ウ 学校の核として積極的に活動することができ、部活動等に積極的に取り組もうとする意欲と能力のある生徒を求める。</p>	<p>ア 魅力ある授業を実践し、教科への興味関心を高め自ら学ぶ姿勢を養成する。</p> <p>イ 主体的に学ぶ態度や思考力・表現力・判断力の育成を重視する。</p> <p>ウ 総合的な探究の時間、ホームルーム活動を通して、生徒自身が主体的に考え、行動し、将来望ましい自己実現ができるようにキャリア教育を推進する。</p> <p>エ すべての教育活動を通して、人権・同和教育に対する正しい知識や人権感覚を身に付け、あらゆる差別・いじめが起こらないように積極的に取り組む。</p>	<p>ア 自然を尊び郷土を愛し、人としての優しさに満ちた豊かな人間性と、自らの生き方に向けてよりよく生きる自主自律の精神を育成する。(自律)</p> <p>イ 個性と創造性を伸ばす個に応じた教育を進めるとともに、高い志を持ち、自ら判断する力、自ら学ぶ力と学んだことをもとに発信する力を育成する。(創造)</p> <p>ウ 互いの存在を認め合い敬意をもって接し、皆が安心して過ごせるような配慮や気づきのできる人材を育成する。(友愛)</p>

達成度(評価)	A:十分達成できている B:おおむね達成できている C:やや不十分である D:不十分である
---------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<p>Your Ambition, Our Future ~ 学びの先に広がる 無限の可能性 ~</p> <p>○普通科改革を推進し、高い志を持つ生徒を県内外から呼び込み、学校の新たな魅力づくりに挑戦する。</p> <p>○教科学習に加え、地域との連携のもと多様な学びに挑戦することで、地域の期待に応え、社会に貢献できる有為な人材を育成する。</p>
----------------------------	--

4 本年度の 重点目標	<p>「普通科改革の取り組みを進め、地域の期待に応える普通科進学校を目指す」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「MIRAI進学科」における校内体制の確立 新学科の資格を確立すると同時に、3か年の教育活動計画をしっかりと整える。 ・学力向上と進路保障 進路目標実現に向けて基礎学力の定着と併せ、思考力、判断力、表現力等を身につけさせ、生徒一人ひとりの学力を伸ばす。 ・自己有用感の育成 集団の中で様々な体験を積ませることにより、自分がどれだけ大切な存在であるか自分自身で認識させ、互いに認め合うことのできる生徒を育成する。 ・地域連携の強化と選ばれる学校づくり 総合的な探究の時間等を通じて、地域社会にかかわる様々な活動に取り組むことで、地域社会との連携を深め、地域から信頼され選ばれる学校づくりをする。
----------------	---

5 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目				最終評価		主な担当者		
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価				
				達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	教務	○classiの学習動画等を用いた学習の効率化と自走化	○classi利用満足度調査で「自学学習機能」利用率80%以上	・各教科と学年教務を中心に、classiの「学習トレーニング」の配信等を行い、取組状況の把握や模試結果との検証を行う。	A	・今年度の「Classi学習トレーニング」の実施は利用率約40%と課題が残ったが、来年度は「ステイアワリ」を導入・活用し、個別学習の最適化に更に取り組むたい。	A	・大阪大、筑波大など、今までになかった進路を開拓できたことは大変素晴らしいと思う。
	教務	○新学習指導要領に沿った学習指導・評価を検証し、本校の実情に合わせた改善を図る	○適平均家庭学習時間1.2年120分、3年:240分以上の学習時間確保	・各教科で評価方法の改善を図り、生徒がスモールステップで目標を立てて学習することができるように、各教科において単元テストの実施やパフォーマンステストの実施などを行う仕組み作りをする。	B	・11月の学習時間調査では3年平均211分/目標達成率38%、2年平均106分/目標達成率32%、1年平均94分/目標達成率25%の結果。	B	・社会教育では個の学びと同等に、学びあいの環境づくりを大切に。来年度以降、「個」ではなく「集団」として意識を高めよう仕組み、学生同士で情報交換したり刺激しあえる仕組みを検討してはどうか。
	各学年主任	○1年:家庭学習の定着、進路意識の育成・早期確立 ○2年:授業での習得を目指し、そのための家庭における学習の大切さを理解させ、積極的な学習態度を育成する ○3年:進路実現に向け、見通しを立てて主体的に粘り強く学習する生徒の育成	○1年:予習復習定着率100%を目指す。 ○2年:生徒の学習習慣の確立(学年+1時間の家庭学習時間の確保) ○3年:国公立合格50名以上、難関大学合格5名以上、佐賀大学合格10名以上、福岡大学合格30名以上	・1年:学習時間調査の導入、大学訪問や大学教授等の講義で進路意識を高める。 ・2年:生徒の進路希望に応じた長期的・計画的な指導の工夫と学習記録の積極的な活用。 ・3年:進路別集会の実施、担任、学年主任との二者面談を通して目標、今後の見通し、学力向上の方策を確認する。難関大志望者向けの特課の実施。	A	・1年:予習復習定着率100%までとはいかないが、90%近くの生徒が学習習慣を定着させるようになってきた。学校生活も徐々に落ち着き、進路に対する意識の向上がみられるようになった。 ・2年:授業内における理解度は高めることができたが、定着させるための家庭学習はまだ平日平均2時間未満である。受験に向けた早期の意識付けを進めていく。 ・3年:(3月10日現在)福岡大学30名の目標に対し、延べ48名が合格。国公立大学は、前期試験まで48名(佐賀大学11名)が合格している状況。…(現時点での実績であり、今後、目標達成の見込み。)	B	・生徒同士、後輩たちが自律的、自発的に真似していきけるよう、ノウハウ化を進めていただきたい。 ・今年度の取り組みは一定の評価ができる。 ・一方で目標数値到達の伸びしろがあるので、数値到達に向け取り組みの改善も必要。 ・学校外での学習習慣を形成させるために、どのような手立てを取っているのかを示していくとよい。
●心の教育	生徒指導	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートで「学校生活に満足している」生徒の割合が90%以上	・生徒会と連携し学校行事の充実を図り、生徒の社会性や倫理観の育成につなげる。 ・全校集会や各学期の終業式等を利用し、生徒が自身の行動についてフィードバックできる機会を設ける。	A	・学校評価アンケート「本校で充実した学校生活を送っている」の質問項目に対し、「そう思う」…55.9%、「ややそう思う」…40.4% 合計96.3%となり、概ね数値目標は達成することができた。今後も、生徒が充実した学校生活を送ることができるよう、生徒会とも連携しながら新たな取り組みを実施していきたい。	A	・学校行事での私服等、生徒の要望、提案を認めていただく機会が増え、例年に比べ自己肯定感が高まったと感じた。先生方の柔軟な姿勢が、心理的安全性をもたらした。心の平穏に繋がっているように思う。
	教相・生指	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートで「いじめを許さない教育が行われているか」という質問に対して、「そう思う」「だいたいそう思う」の割合が80%以上 ○いじめ解消率80%以上	・生徒のこまめな実態把握のため、年3回、学校生活アンケートを実施する。 ・面談週間などを利用し、生徒の悩みを聞く。 ・学年と定期的な情報交換を行う(週1回)	A	・各学年の教育相談担当者が担任等に毎週出席し、課題を抱える生徒の情報を早期に把握し、対応することができた。 ・学校評価アンケート「いじめを許さない教育が行われているか」という質問項目に対し、「そう思う」が54.9%、「ややそう思う」が36.6%で、目標は概ね達成した。いじめの認知・認知の件数は6件。学年団、いじめ対策委員会、教育相談等で迅速に対応できた。いじめ解消に向け継続指導中。	A	・加えて、学校外の大人、他校生徒など、多様な人と出会う機会を設けることで、家庭や学校の他に、「私の居場所」と感じる環境づくりを協議会とともに検討していただきたい。
●健康・体づくり	保健厚生	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と、食の自己管理能力の育成」	○スマートフォンの使用時間について「自分の生活や学習にとって良い使用時間だ」と回答した生徒70%以上 ○睡眠時間について「健康に良い睡眠がとれている」と回答した生徒70%以上 ●健康に良い食事をしている生徒80%以上	・スマホ利用時間の自己管理について、全校集会、学年集会、HRIにおいて、保健主事、学年主任、正副担任による講話を定期的に行う。 ・保健だより等の発行により、スマホ利用時間、睡眠時間、健康的な食事など、生活のリズムの大切さについて理解を深めさせる。	B	・学校評価アンケートの結果、「食事」「睡眠」についてはそれぞれ90%、73%、「スマートフォン」については66%で、「食事」「睡眠」については数値目標を上回ったが、「スマートフォン」については達成できなかった。「スマートフォン」については、健康面とともに学習・生活面等、多面的に考えさせる指導を行いたい。 ・健康管理について、「チェックシート」や通信等の取り組みをさらに工夫・充実させ、生徒の生活習慣の改善を図りたい。	B	・スマホ使用の改善を促す…というよりは、現実の生活の中で(社会教育の中で)、目指す人や、夢中になれる何かに「出会う」機会を、いかに増やしてあげられるか、だと思ふ。協議会委員としても考えていきたい。
	教頭	●業務効率化の推進と、時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。	・定時退勤日、および学校閉庁日の設定 ・部活動休業日の設定 ・休暇(年次休暇等)取得促進の呼びかけ	A	・週1回の定時退勤推進日や年次休暇等の取得促進を呼びかけたことで、昨年度に比べ2時間外勤務時間合計の平均は約18%減少した。(昨年度は397時間、今年度は328時間…4月～2月の11か月間で比較) ・年次休暇の取得は平均で9.5日にとどまった。(4月～2月の11か月間の実績) 職員によって取得実績に差があるため、特に少ない職員には引き続き呼びかけを行う。	A	・今年度の取り組みは一定の評価ができる。 ・一方で目標数値到達の伸びしろがあるので、数値到達に向け取り組みの改善も必要。 ・勤務時間の削減分は、職員の休養・自己実現・社会参加などに充てられているのかを示すとよい。
●特別支援教育の充実	教育相談	○生徒同士の好ましい人間関係を育てる。 ○自己理解を深めさせ人格成長を図る。 ○生徒一人ひとりの教育上の課題について職員間の共通理解を図り、支援が必要な場合はあらゆる機会をとらえ実践する。	○スクールカウンセラー面談希望者(生徒・保護者)の面談実施率を80%以上にする。 ○個別支援計画が必要な生徒に対し、支援計画を100%作成する	・スクールカウンセラー来校スケジュールを生徒、保護者、職員にこまめに周知する。 ・担当職員が学年の担任会に参加することで、支援を要する生徒の情報を共有するとともに、指導について共通理解を深める。	A	・スクールカウンセラー事業について、職員だけでなく、生徒、保護者にも広く知ってもらうことができ、その結果、多くの面談機会を設けることができた。 ・特別支援に関しては、担任の先生方の協力を得ながら、必要な生徒全員に対し支援計画を立てるとともに、生徒情報を教員間で共有し、支援を実行することができた。	A	・教育相談を受けるまでのシステムと、その後の関係機関への接続の例を示すとよい。 ・高校における特別支援教育では、どのような合理的配慮が行われているのかを知りたい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組				最終評価		主な担当者		
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価				
				達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
★唯一無二の誇り高き学校づくり	探究研修	★「MIRAI進学科」における校内体制の確立 新学科の資格を確立すると同時に、3か年の教育活動計画をしっかりと整える。	○1年生の円滑な学科選択及び文理選択をおして2年次のクラス編成を完了する ○学科選択や文理選択について「良い選択ができたと思う」と答えた生徒80%以上 ○MIRAI進学科の教科科目や探究について、内容及び計画のブラッシュアップを進める	・1年生の学科選択及び文理選択に資するため、大学見学、外部との連携、探究活動等をおしたキャリア教育を充実させる。 ・進路選択意識の向上のため、適切な時期や回数希望調査、及び面談を実施する。 ・教科、教務部、探究研修係、学年の連携。	A	・学科選択及び文理選択に満足している生徒は全学年でそれぞれ95%程度にのぼった。 ・大学見学や進学説明会へのバスター参加、ならびに校内の進路講演会や各種セミナーの開催により、学科選択及び文理選択の指導を円滑に進めることができた。 ・総務部、進路指導部、および学年の連携により、産官学等の外部との連携をはかるとともに、探究活動の推進をおして、キャリア教育を充実させることができた。 ・次年度に向け、MIRAI進学科独自の選択科目について、内容及び計画の立案ができた。	A	・普通科進学校としての地域社会への貢献のあり方を模索してはどうか。(伊万里市民の「リ・ラーニング」の拠点として、公開講座・学習情報提供・生涯学習相談など。また、ボランティアを相談室に配置・活用することなど、様々な可能性がある)
	進路	◎学力向上と進路保障 進路目標実現に向けて基礎学力の定着と併せ、思考力、判断力、表現力等を身につけさせ、生徒一人ひとりの学力を伸ばす。	○進研模試の全国偏差値50以上の割合を、1年生25%以上、2年生30%以上、3年生20%以上を目標とし、最終的に、国公立合格在籍数30%以上を目指す ○教員の研修参加延べ20人以上、学力分析会を各学年1回以上、生徒向けの進路講演2回以上	・教職員の研修への参加を呼びかけ、教員の指導力向上を図る。 ・模試の分析会を実施し、学力向上のための指導法の改善や問題点を共通理解する。 ・生徒向けの進路講演会を年2回以上実施することで進路意識を高める。	A	・1月進研模試で偏差値50以上の割合は1年生34%、2年生22%(実受験者数)であり、目標をほぼ達成することができた。 ・(3月10日現在、進捗)3年生の国公立大学合格者数は前期終了の段階で大阪大、筑波大、九州大を含む48名(総合型、推薦型も含む)であり、27%とほぼ目標を達成することができた。 ・教員の研修会も23名の参加、学力分析会も1、2年生は1回、3年生は3回と予定通り実施、講演会も2回実施できた。	A	・地域との連携を、探究学習以外にいかにか確保するかが、他校との差別化で重要な視点と思う。 ・空き教室を活用した交流は、生徒だけでなく、大人の学びなおしの機会に開放していくことを引き続き提案していきたい。 ・地域性豊かな恒例行事への生徒参画に期待。
	生徒会	★自己有用感の育成 集団の中で様々な体験を積ませることにより、自分がどれだけ大切な存在であるか自分自身で認識させ、互いに認め合うことのできる生徒を育成する。	○各学校行事を通して、集団の中で自己の役割を果せた生徒の割合が70%以上。 ○学校祭の満足度が80%以上。	・各種行事で、生徒一人一人に役割を与える。 ・リーダーや指導者を育成し、関わる全ての人が楽しめる仕組みをつくる。 ・生徒が主体となる学校祭を運営し、自ら課題や問題を解決しながら運営できる仕組みをつくる。	A	・1年間を通して、生徒会を中心に生徒の意見を学校行事に反映させることができた。 ・その結果、95%の生徒が「役割を果たすことができた」と回答した。 ・学校祭では、生徒総会の意見を参考に新しいルールを設定し、実行したことで、行事の満足度向上や規範意識の向上に繋がった。アンケートの結果では、90%以上の生徒が「満足した」と回答した。	A	・MIRAI進学科の設置に際して、第一に期待することは学力の向上、伊西地区での倍率が最も高かったことは保護者の期待の表れであり、引き続き学力向上の取り組みを最優先に考えていきたい。 ・探究学習を通して生徒に身につけさせたい能力、目標を精選しては。(例:全国高校生プレゼン甲子園への出場をアウトプットに位置付け、スキルの向上を図る、など)
	探究研修	★◎地域連携の強化と選ばれる学校づくり 総合的な探究の時間等を通じて、地域社会にかかわる様々な活動に取り組むことで、地域社会との連携を深め、地域から信頼され選ばれる学校づくりをする。	●★伊万里高校を中学生に勧められる生徒の割合…(80%)以上 ●★教職員の割合…(80%)以上 ●★県外からの入学者数(10)人以上 ○学校紹介動画の再生回数3000回以上 YouTubeチャンネルの登録者数300人以上	・地域・企業等と協働した学校運営を行う。 ・3年間を見通した体系的な計画を総合的な探究の時間を実践する。 ・SNS等を活用し、学校の魅力を積極的に発信する。	A	・生徒アンケートでは、9割近くが本校を勧めたいと回答した。一方で、上級学年は強い肯定的回答が比較的少なめであった。また、職員アンケートではすべて肯定的回答であった。 ・探究活動においては、今年度まずは新しい指導計画に沿った1年間の流れを作ることができ、また産官学連携の推進や各種コンテストでの入賞など、一定の成果が得られた。 ・広範囲ではPR動画の作成やInstagramの開設など情報発信の充実にも努めた。県外受験生は4名で定員充足には至らなかったが、伊西地区の県立高校では最も高い倍率となった。	A	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望	<p>各評価項目において、職員は、生徒の学校生活における心身の健康状態、進路希望、学習状況、成績、交友関係、家庭環境、あるいは個々の困りごと等に至るまで、それらの現状及び課題をよく把握し整理しようとする。さらに、課題の改善に向け、適切な目標を立て、共通理解のもとで具体的な指導や取り組みを展開している。</p> <p>・学校の魅力化、活性化を加速させ、高い志を持つ生徒が集まる学校へ、…県西部の普通科進学校として、生徒、保護者、地域の期待に応えるため、難関大学や国公立大学を軸としたさらなる進学実績の向上を目指すとともに、新学科を軌道に乗せ、外部連携や授業改善を深め、伊万里高校のさらなる活性化と魅力化を進める。</p> <p>・普通科改革により志願者増加の好循環をつくる。…進学実績のさらなる向上により、本校の魅力を増幅・活性化させ、特に伊万里市から他地域への志願者流出を防ぐ。より高度かつ発展的な学びをおして高い学力を身につけさせる。伊万里高校といえは進学、地域に求められる進学実績を継続的に向上させて志願者増加の好循環を生み、将来は市外や県外からも支持される学校にする。</p>
----------------	--